

教育情報コーナーからのお知らせ

6・7月

なかなか盛り上がってこないことで話題のドラマといえは……
そう、NHK大河ドラマ「平清盛」。みなさんはご覧になっていますか？
尼崎周辺は、歴史の古い土地柄ですのでドラマにも登場するかもしれませんね。
北図書館編集「尼崎の伝説」からドラマに関連した逸話をご紹介します。

名月姫

平安時代、御津松（尾浜）に刑部左衛門尉国春（ぎょうぶさえもんのじょうくにはる）という豪族がいました。長年子どもに恵まれないので鞍馬山にこもり願をかけたところ、玉のような女の子がうまれました。

中秋の名月の日に生まれたので「名月姫」と名づけました。

姫が14歳になった時、能勢の豪族、藤兵衛家包（とうべえいえかね）が姫をさらい、能勢に連れ帰って妻にしまいました。父の国春は悲しみにくれて出家し、諸国行脚の旅にでました。

折しも、平清盛は兵庫の大和田の泊の改修工事をしていましたが、難工事で「人柱を立てれば工事は成功する」と思い、旅人を捕えていました。国春も捕えられて人柱にされることになりました。

ところが、ある夜、能勢の家包夫婦の夢枕に一人の老翁が立ち、「汝の父が清盛に捕らわれ命が危ない、すぐに行け」と告げました。老翁は大日如来の化身でした。

夫婦はただちに清盛のもとへおもむき、父の助命を願い出ました。清盛の小姓松王丸は、それを見て30人の人柱の身代わりに立とうと決意し、清盛に申し出ました。松王丸の身代わりで国春は釈放され、姫とともに大日如来を祀るお堂を建てて暮らしたといいます。

名月姫の墓と伝えられている宝篋印塔（ほうきょういんとう）は鎌倉末期のものといわれ、尾浜八幡神社境内にあります。

（出典） 摂津名所図会 立花志稿 むかしと今と

義経と大物の浦

12世紀の末、神崎川の河口の今の大物のあたりは大物の浦と呼ばれていました。

源平の合戦で平氏が滅び、源氏が政権をとりましたが、義経は兄頼朝と不和になり西国（四国・九州方面）へ逃げようと大物の浦へ来ました。追ってきた頼朝勢を合戦の末、退けた義経は、静御前や弁慶など数人の味方と大物の浦を船出しました。

静なごりの橋

義経が大物の浦から船出するとき、静御前とこの橋でなごりを惜しんだと伝えられています。『摂陽群談』ではこの橋のあった地を「管弦町（現在は大物町1丁目のうち）にあり」と書いていますが、橋はなく、「静なごりの橋」の碑が辰巳八幡神社の境内に建っています。

その夜、嵐にあった義経一行は、住吉の浜に流れ着き、吉野へ落ちていきます。

静化粧井

義経に従って大物の浦に来た静御前が化粧の水に使ったと言い伝える井戸が、東本町1丁目ありました。今は国道43号線の下になってあとかたもなくなっています。

（出典）吾妻鏡 尼崎今昔物語 上方59号他

